

<b>授業科目名</b>	博物館概論			<b>担当教員名</b>	小磯 学	
<b>科目区分</b>	<b>単位</b>	<b>配当年次</b>	<b>実施時期</b>	<b>曜日・時限</b>	<b>形態</b>	
学部共通専門科目 (学芸員資格取得科目)	選択	2	2～4	春学期	金・3	講義
<b>授業概要</b>						
<p>・国内・海外を問わず、観光地でかかわらず立ち寄る見所のひとつが博物館（美術館、水族館、動物園、植物園などを含む）といえます。それは博物館が、その土地の文化や歴史を知る窓口であり、また普段接することのできない貴重な文化・自然遺産に出合えるからにほかなりません。さらに博物館は、今日では地元の人々にとっても地域振興や生涯学習の場としても注目されつつあります。</p> <p>そうした博物館の歴史的背景と現状を概観します。</p>						
<b>到達目標</b>						
<p>・世界や日本の博物館が、どのような歴史を経て今日の姿を獲得するに至ったのか。当然ながら、博物館もまた、人類の歴史の流れの中で（必然的に）形成されてきた背景を学ぶことが目的です。</p>						
<b>授業方法(展開)</b>						
<p>・講義型式。ただしテーマ・課題を各自で調べ、発表することも随時行います。</p>						
<b>関連科目・知識・スキル</b>						
<p>・学芸員資格取得のためには、本授業のほか、博物館学各論・教育学基礎・視聴覚教育メディア論・生涯学習概論の単位をすべて取り終えたのち、初めて博物館実習が履修できるので注意すること。</p>						
<b>成績評価</b>						
<p>・レポート、期末試験などに基づき総合的に評価します。</p>						
<b>教科書・参考書など</b>						
<p>・図書館の一番奥の棚に博物館学関連の書籍のコーナーが設けてあります（多くは禁帯出ですが）。是非とも手に取って、自分でページをめくってみてください。</p> <p>高橋隆博 他（編）『博物館学ハンドブック』関西大学出版部、水藤真 2007『博物館学を学ぶ』山川出版、全国大学博物館学講座協議会西日本部会（編）『新しい博物館学』芙蓉書房など。</p>						
<b>履修上の注意事項</b>						
<p>・学芸員資格取得に必要な科目。卒業に必要な単位には含まれません。</p> <p>・実際に博物館で学芸員の職に就くのは非常に困難であるのが現実ですが、一般教養として自分の視野を広げる目的のために、日本全国でこの資格を取得する学生が1万人近くいるといわれています。</p> <p>・1回程度博物館見学（神戸市内）を予定しており、その際の交通費・入館料を必要とします。</p>						

## 授業の柱(単元)と授業スケジュール

- 第1回 オリエンテーション：博物館とは。博物館学を学ぶにあたって
- 第2回 どのような博物館があるか（網干・高橋（編）『博物館概説』第I部第1章）
- 第3回 博物館の機能と学芸員の仕事（網干・高橋（編）『博物館概説』第I部第1章）
- 第4回 博物館に関連する法律（網干・高橋（編）『博物館概説』第IV部）
- 第5回 博物館の歴史ーギリシア（中村浩『博物館学で何がわかるか』第1章 芙蓉書房）
- 第6回 博物館の歴史ーアレクサンドリア図書館
- 第7回 博物館の歴史ールネサンスと博物館の萌芽
- 第8回 博物館の歴史ー大航海時代
- 第8回 課題発表
- 第9回 課題発表
- 第10回 博物館見学
- 第11回 博物館の歴史ーイギリスと大英博物館
- 第12回 博物館の歴史ーフランスとルーブル博物館
- 第13回 博物館の歴史ー万国博覧会の幕開け
- 第14回 日本の博物館（中村浩『博物館学で何がわかるか』第1章 芙蓉書房）
- 第15回 生涯学習の場としての博物館（大堀哲監修博物館学シリーズ『博物館概論』第5章 樹村房）

## 学生への一言

博物館は、毎日行くような場所ではないかもしれませんが。しかし今の自分自身にとって過去の記憶や思い出が重要なように、社会にとって博物館は必要不可欠な役割を担っています。自分にとっての博物館、あるいは社会にとっての博物館というものを、絶えず自問してほしいと思います。